

○委員長（鈴木たけし君） 次に、錦織委員。

○委員（錦織淳二君） 港区議会だよりの配布ルートについて質問させていただきます。

予算を立てる際に、まずは無駄の排除を考えがちですが、ただ単に排除すればよいというものではなく、今あるものを同じ予算で何倍も生かすことができるならば、これも立派な無駄の排除になります。

港区議会だよりの平成24年度発行予定部数は45万1,200部になっており、発行は年4回で、定例会後の4月、7月、10月、1月になり、1回につき11万2,800部で、予算は355万9,752円計上してあります。私は港区内に住所を置いて10年になり、港区内で仕事を始めて18年になりますが、区議を目指す前までは、区議会だよりを初め、区の広報紙を意識して読んだことがなかったように思います。私のマンションや同地区の方々にお聞きしても、町会、消防団、PTAと、何かしら区と関係した仕事をされている方は読んでいらっしゃるケースも多いようですが、そのほかの方々には余り読んでいらっしゃらないようなご様子でございます。どうやら国政のほうは身近に感じて、少しは興味を持たれている方がいるものの、地方議会は本来であれば国政より身近であるにもかかわらず、テレビや新聞、雑誌で余り取り上げられていないせいもあり、若い方になればなるほど関心を持たれている方が少ないようで、中には区議会だよりのあることさえ知らない方も多いようでございます。それよりも、新聞をとる人自体がどんどん少なくなっているのです、今後ますます区議会だよりの読者が減っていくのではないかと危惧をいたしております。またインターネットで見ている方が多いかということ、60歳以上の方が読まれている割合が多いせいか、それも少ないようでございます。

そこで区は、区民の皆様に区議会だよりを読んでいる、読んでいないとか、読んでいる方はどこで手にされたのかとか、どこに置いてほしいのか、どのような内容にしてほしいのか等も含めて、アンケートをとられたことはありますでしょうか。お答えください。

○区議会事務局次長（日詰由三君） 港区議会だよりは、区議会の審議内容や審議結果等、議員の皆さんの議会活動を区民の皆様を初め多くの方々に広くお知らせすることを目的に、昭和43年5月に第1号を発行以来、今日まで43年の多年にわたり区民と議会をつなぐ唯一の紙媒体の広報として、その目的達成のために発行してまいりました。

お尋ねのございましたアンケート調査につきましては、保管、保存してあります記録などをさかのぼり調査いたしました。区議会がアンケート調査を実施した記録は見当たりませんでした。

○委員（錦織淳二君） ありがとうございます。ぜひ一度アンケート調査を行っていただきたいと思います。

では、区議会だよりの配布ルートですが、1回につき11万2,800部を朝日、毎日、読売、日経、産経、東京新聞の6紙の折り込みと、戸別配付は別として、区の施設ほかJR田町、浜松町の2駅、東京メトロ広尾、神谷町、表参道、乃木坂、赤坂、白金台、六本木一丁目の7駅、ゆりかも

めの竹橋、日の出、芝浦ふ頭、お台場海浜公園、台場の5駅及び郵便局と、公衆浴場として万才湯、玉菊湯、アクアガーデン三越湯、麻布黒美水温泉竹の湯、清水湯、ふれあい湯の6カ所に置かれていますが、毎日残った部数を計算して、その後置く部数の参考にされ、効果的な置き方を検討されておりますでしょうか。まずは各場所に残った部数の現状を教えてくださいませ。

○区議会事務局次長（日詰由三君） 駅置き等の残数についてでございますが、配布業務を委託しております業者からの配布業務委託管理報告書により把握しております。昨年の第2回定例会後に発行いたしました区議会だよりの残数につきまして申し上げます。JRの2駅、田町、浜松町駅ですが、残数はゼロでございます。東京メトロ7駅、広尾、神谷町、表参道、乃木坂、赤坂、白金台、六本木一丁目ですが、赤坂1駅ですけれども、22部の残でございます。続きましてゆりかもめの5駅、竹芝、日の出、芝浦ふ頭、お台場海浜公園、台場ですが、竹芝が16、日の出が29、芝浦ふ頭が13、台場が10、以上の残になっております。続きまして、郵便局7局ですが、赤坂、一ツ木通、麻布、芝、芝公園、新橋、高輪でございますけれども、郵便局の残はゼロでございます。次に、公衆浴場6カ所でございますが、1カ所、南青山三丁目でございます清水湯さんのみ13部残ということを把握してございます。

以上でございます。

○委員（錦織淳二君） ありがとうございます。区議会だよりの駅置き及び公衆浴場への配布業務委託管理報告ですが、JR、東京メトロ、ゆりかもめの14駅及び公衆浴場6カ所の計20カ所の回収部数が、6カ所から103部出ており、あとの14カ所の回収部数がゼロになっているということは、部数が足りなくなったということなので、14カ所についてはもっと多い部数を置く必要があるということになります。その旨の指示を業者にされていますでしょうか。また、業者はどこと契約され、どのような契約内容になっておりますでしょうか。

○区議会事務局次長（日詰由三君） 初めに、年間の委託契約を結んでおります業者でございますが、公益社団法人港区シルバー人材センターでございます。使用内容につきましては、区議会事務局が指定した部数を指定した日に指定した場所に設置すること、不足している箇所への配布部数をふやすこと、年度途中での配布数の変更は指示をしておりません。ご指摘のとおり、残部数を把握し、事後の設置時に増減させることは、より多くの方が手にとって見ることができ、効果的で望ましいと考えておりますが、仕様書の中には具体的には年度途中での配布部数の変更については規定しておりませんけれども、年度途中においても弾力的で機能的な対応ができるか、可能かどうかを含め、委託業者と相談させていただきたいと考えております。

○委員（錦織淳二君） ありがとうございます。実は時間があつたので、先週港区シルバー人材センターにお伺いして、配布の実情をちょっとお聞きしてきました。それによると、回収部数がゼロなのは区民の皆様がお読みいただいたのではなく、一定の期間がたてば先方のほうでほかのものとローテーションで勝手に差しかえられてしまうため、残部数の回収がめったにないよ

うな状況になっているのではないかとということでございました。また、部数の変更は現状の契約条件内で配達人に無理がない程度ならフレキシブルに対応していただけることも確認しておりますが、いずれにいたしましても、これではなかなか多くの区民の皆様にお届けするのは難しいようでございます。区議会だよりの編集委員の方々には、2月6日の朝日新聞の記事のコピーが配られたようでございますが、それによりますと、さいたま市の市民アンケートの結果、市議会の情報を知る方法の1位は議会広報紙で70.9%でしたが、いつも読んでいる方は60歳代で3割、それ以下では1割に満たないという結果が出ております。つきましては、区議会だよりの読者数がそのまま選挙時の投票率にもつながる確率も高いので、区議会としては広報紙改革をし、区民の皆様親しみを持っていただける冊子づくりを考えていく必要があるかもしれませんし、区としても区議会だよりの配布方法を検討すべきではないでしょうか。例えば、新しい置き場としてスーパー、コンビニ、信用金庫、病院、調剤薬局、タワーマンション、老人ホーム、ちいばす車内、その他に置いてみたり、新聞をとる家庭が少なくなっている中で、小中学校の生徒経由で親御さんに渡してもらうとか、町内会、PTAを通して配るとか、いろいろ新しいやり方を考える必要があります。区では新しい配布ルートの開拓をされていますでしょうか。お答えください。

○区議会事務局次長（日詰由三君） 新たな設置場所としましては、昨年はJRを2駅、ゆりもめを5駅に依頼し、設置について快諾をいただきましたので、設置を開始したところでございます。区議会内でもいかに多くの人に実際手にとって見ていただくか、大変重要なことでありますので、区民の皆さんが日常生活の中で利用したり、立ち寄ったりする場所への設置拡大は効果的と思われます。委員ご指摘のちいばす車内、信用金庫など金融機関初め病院等、今後さらに設置場所も拡大に向け、検討し、相手方とのお話をしてまいりたいと考えておりますので、よろしくをお願いします。

○委員（錦織淳二君） ありがとうございます。区民の皆様の暮らしに直接かわってくるのが区議会、区議会と区民を結ぶのは区議会だよりで。東日本大震災でも行政と住民とのつながりが改めて見直されています。首都圏直下型地震が叫ばれる今日において、区政を知りたい、知ろうと思いはじめた方も多いのではないのでしょうか。ということは、今こそ区民と議会の距離を縮めるチャンスなので、ぜひ区議会だよりの配布ルートの開拓をお願いいたします。

以上、終わります。

○委員長（鈴木たけし君） 錦織議員の発言は終わりました。

これにて歳出第1款議会費の質疑は終了いたしました。